Meiji University Graduate School
Nakano Campus

Graduate School of

Global Japanese Studies

国際日本学研究科

国際的な視野の中で日本と世界をつなぐ高度な調査研究能力を

国際日本学研究科は、日本の文化および社会システムを国際的な視点に立ち理解し、異文化および多様な社会システムを理解することができる、高度な調査研究能力を有する人材の育成を目指します。
博士前期課程・博士後期課程が設置されており、前期課程は、ポップカルチャー研究、日本社会・産業システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究の6つの研究領域、後期課程は、ポップカルチャー、社会・情報・国際関係、言語・国際交流、文化・思想の4つの研究分野に分かれています。
自身の研究領域における科目の履修を通じて高度な専門性を身につけるとともに、研究領域を横断した必修科目や、他領域の科目の履修、領域で区別されない院生共同研究室での日常的な交流、全員参加の「院生フォーラム」や「中間報告会」等を通じて、自身の研究領域とは異なる領域への視野を広げ、自身の研究領域を相対化します。
さらに、北京大学との協定に基づき、院生による研究発表会を行うなど、国際学術交流を積極的に推進しています。

国際日本学部事務室（低層棟3F）
※事務取扱時間（開室時間）はHPで確認してください。
電話●03-5343-8039　Mail●ggjs@mics.meiji.ac.jp
※休業期間やイベント等により開室時間は変更となる場合があります。

国際日本学研究科
Webサイト
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/index.html

入学者の受入方針
（アドミッション・ポリシー）
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/policy/admission.html

教育課程編成・実施方針
（カリキュラム・ポリシー）
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/policy/curriculum.html

学位授与方針
（ディプロマ・ポリシー）
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/policy/diploma.html

人材養成その他の
教育研究上の目的
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/purpose.html

幅広い研究領域

■ 博士前期課程

ポップカルチャー	日本社会・産業システム	多文化共生・異文化間教育
日本語学・日本語教育学	英語教育学	文化・思想

■ 博士後期課程

ポップカルチャー／社会・情報・国際関係／言語・国際交流／文化・思想

理論と実践を組み合わせた学際的な教育・研究環境

- 研究領域を超えた必修科目の設置
- 研究（ポスター）発表会／中間報告会／就職懇談会
- 海外協定校との学術交流／多様なフィールドワーク

カリキュラムの特色

■ 博士前期課程

博士前期課程のカリキュラムは、主要科目と特修科目の2つの科目区分から構成されます。主要科目は、指導教員から2年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や研究テーマを深める研究演習科目として位置付けられています。特修科目は、それぞれの領域を学ぶ上で必要な内容を取り扱う講義科目として位置付けられており、必修科目として「国際日本学総合研究」が設置されています。
この「国際日本学総合研究」では、国際日本学研究そのものの理解と、本研究科の基本コンセプトに関する共通認識の形成を目的としています。

■ 博士後期課程

博士後期課程のカリキュラムは、必修科目と選択必修科目の2つの科目区分から構成されます。必修科目は、指導教員から3年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や研究テーマを深める研究演習科目として位置付けています。選択必修科目は、それぞれの研究テーマを学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けられています。カリキュラム編成に関しては、2つの科目区分からの履修によって、大学院生が選択した研究分野だけではなく関連する他研究分野についても有機的に学習できるようになっています。

■ 博士前期課程

主要科目
視覚文化演習Ⅰ
ポップカルチャー演習Ⅰ
ポップカルチャー演習Ⅱ
ポップカルチャー演習Ⅲ
ポップカルチャー演習Ⅳ
日本社会・産業システム演習Ⅰ
日本社会・産業システム演習Ⅱ
日本社会・産業システム演習Ⅲ
日本社会・産業システム演習Ⅳ
日本社会・産業システム演習Ⅴ
国際関係・地域演習Ⅰ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅰ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅱ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅲ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅳ
日本語学演習Ⅰ
日本語教育学演習Ⅰ
日本語教育学演習Ⅱ
英語教育学演習Ⅰ
英語教育学演習Ⅱ
英語教育学演習Ⅲ
英語教育学演習Ⅳ
文化関係・文化変容演習Ⅰ
文化関係・文化変容演習Ⅱ
文化関係・文化変容演習Ⅲ
文化関係・文化変容演習Ⅳ
日本思想演習Ⅰ
日本思想演習Ⅱ

特修科目（選択）	
視覚文化研究（演劇）	応用言語学研究（第2言語習得理論A、B）
ポップカルチャー研究A～I	応用言語学研究（社会言語学）
日本社会・産業システム研究（国際メディア）	応用言語学研究（語用論）
日本社会・産業システム研究（情報産業）	応用言語学研究（Discourse Analysis）
日本社会・産業システム研究（国際知財）	応用言語学研究（コーパス言語学）
日本社会・産業システム研究（クリエイティブ産業）	英語教育学研究（学習指導要領と指導法）
日本社会・産業システム研究（広告）	英語教育学研究（マティリアル・デベロップメント）
日本社会・産業システム研究（流通A、B）	英語教育学研究（英語教授法）
日本社会・産業システム研究（ものづくり経営A、B）	英語教育学研究（カリキュラムデザイン）
多文化共生・異文化間教育研究（異文化間教育学特論）	英語教育学研究（スピーチコミュニケーション）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生と地域社会）	英語教育学研究（レトリック）
多文化共生・異文化間教育研究（留学生政策）	英語教育学研究（心理言語学）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生特論）	英語教育学研究（インストラクショナル・コミュニケーション）
多文化共生・異文化間教育研究（企業とダイバーシティ）	リサーチメソッド研究（量的研究方法）
多文化共生・異文化間教育研究（文化間移動と教育）	リサーチメソッド研究（質的研究方法）
多文化共生・異文化間教育研究（発達心理学）	文化関係・文化変容研究（日本近代文学A～D）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共修）	文化関係・文化変容研究（フランス語圏A、B）
多文化共生・異文化間教育研究（共生とメディア）	文化関係・文化変容研究（映画）
アクションリサーチ	文化関係・文化変容研究（近代化と開発）
日本語学研究A～D	文化関係・文化変容研究（記号と環境A、B）
日本語教育学研究A～E	文化関係・文化変容研究（カルチュラル・スタディーズA、B）
	文化関係・文化変容研究（日本古典文学）
	日本思想研究A～F

特修科目（必修）
国際日本学総合研究

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

■ 博士後期課程

必修科目	
研究論文指導（ポップカルチャー）	研究論文指導（言語・国際交流）
研究論文指導（社会・情報・国際関係）	研究論文指導（文化・思想）

選択必修科目	
ポップカルチャー特別研究	言語・国際交流特別研究
社会・情報・国際関係特別研究	文化・思想特別研究

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

博士前期課程　6つの研究領域

ポップカルチャー研究領域

日本の先端文化、マンガ・アニメ・ゲーム

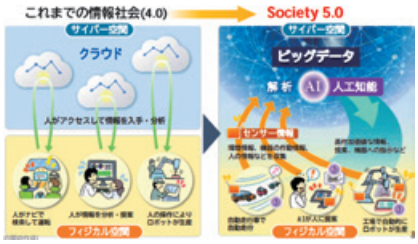
マンガ・アニメ・ゲーム・特撮に代表される日本のポップカルチャーの一翼の、文化・産業両面の歴史的な発展過程や現状、それらの国内外での受容や、ジェンダーとの関わり、さらには同人誌即売会や「おたく文化」の秋葉原への集中に見受けられるような、特定のスタイルやテイストの発生と、それに基づくコミュニティや場の形成などに目を向けます。また、サブカルチャーとみなされてきたものに大きくまたがるそれら文化のアーカイブ構築や、保存・運用に関する実践的研究を行います。

「おたく：人格＝空間＝都市」展（ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館）

日本社会・産業システム研究領域

日本の社会・産業システムの特質・問題点を探究！

近年、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）を筆頭とするデジタルテクノロジーの革新と進歩によって、人々の暮らしは大きく変わっています。そしてまた、企業活動はますます高度化・複雑化し、社会の仕組みも多様化の様相を呈しています。この研究領域では、日本における消費行動や企業活動、産業構造、そしてその総体としての社会システムのダイナミズム、すなわちその変化や動態を研究します。より具体的には組織のあり方と企業文化、日本的経営やものづくり、日本的流通システム、広告、情報産業およびクリエイティブ産業などを対象として、実践的・理論的な諸問題を考察します。



出典：Society 5.0 - 内閣府より

多文化共生・異文化間教育研究領域

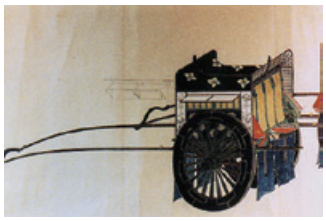
ダイバーシティが社会を変える！

この領域では、多様な人々が共に生きる社会づくりについて研究します。
グローバル化の進展の中で、外国からの労働者や留学生そして移民など多様な文化背景を有する人々が増加しています。また、地域社会や学校、大学あるいは企業における多様性（個性、ジェンダー、障がい等）もより重視されるようになりました。
本領域では、そうした変化がもたらす課題を研究します。外国人に関わる課題、ダイバーシティ&インクルージョン（ジェンダー、障がい、世代など）、地域における多様な協働のあり方、多様性から知を生み出す教育および学習環境デザイン/テクノロジー活用、異文化体験が人間の成長・発達にどのように影響するか、多文化共生を目指す教育の実践とは何かなどが、研究の問いになります。

日本語学・日本語教育学研究領域

「日本語」を携え、世界へ

日本語を研究対象とする「日本語学」の分野では、日本語を歴史的に捉える通時的研究と、現代語など時代を限定してその時代の日本語を捉える共時的研究が可能です。どちらの場合でも、日本語の姿を文字、語彙、文法、文章、運用、認識の仕方などの側面から解明します。
日本語を外国語として教えるための研究をする「日本語教育学」の分野では、日本語に関する言語学的な知見と他の言語との対照に基づいて、学習者にとって日本語のどのような側面が習得しにくいのかを解明し、どのようにすれば学習者が自然な日本語を効率的に習得できるようになるのかを追究します。



出典：山口仲美『平安朝"元気印"列伝』掲載の口絵写真より

雅やかな昔の日本の乗り物「牛車」。これに乗ると、慣れない人は「車酔い」をした。はてさて、「牛車」「車酔い」の言葉はいつから使われたのか？ 物や認識の仕方に関わる「言葉」を追究することは、日本文化を究めることに連なります。

英語教育学研究領域

英語教育は科学だ！理論を学び、実践に活かそう

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第二言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育を行うことができるのでしょうか。その答えを得るためには、応用言語学、社会言語学、心理言語学、認知言語学などの言語学の分野はもとより、言語政策やメディア研究、脳科学など、さまざまなアプローチが可能です。その意味で、英語教育は学際的な分野です。最新の理論や知見、研究方法を学び、教育現場で実践できる力をつけましょう。

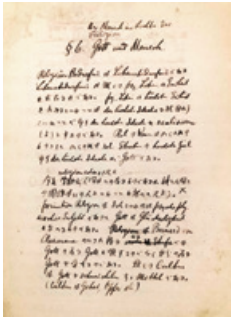
グループワークをする
フィンランドの小学生

最近接発達領域論とは、「子どもは、大人やより能力がある人のscaffoldingを得て、一人では解決できなかった問題が解決できる状態となる」という考え方である。つまり人は、他者調整（他の人の助けや協力）を得て、やがて自己調整（自律）の道筋をたどるのである。それを具現化しているのがフィンランドの教育である。

文化・思想研究領域

文化・思想から日本と世界を知る

日本のことを知るにしても、世界の他の地域のことを知るにしても、そこに生きる人々がどのような文化を持ち、どのようなことを考えてきたのかという視角は欠かせません。この領域では、過去から現在へと至る世界各地の文化や思想について、幅広い視点から研究していくことを目指します。文献資料や視覚・聴覚資料、有形・無形の文化財を知的資源として活用していくための調査・分析技術を習得し、さらに、その外側と内側に広がっている文化や思想にアプローチしていきます。



西田幾多郎の宗教学講義ノート
（『西田幾多郎全集』別巻、岩波書店、2020年より）

1913年9月からおこなわれた京都帝国大学での「宗教学普通講義」のためのノートであると推定される。世界各地の文化や思想を視野に入れて、独自の宗教論が展開されている。写真のページは、半分近くがドイツ語で書かれている。

2025年度 修士論文テーマ［抜粋］

▶日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮における「中華風紅一点」の形成の研究
▶中国におけるゲーム雑誌の起源と変遷
▶日本アニメにおける天狗表象の変遷 ―天狗の人間化を中心に―
▶『少女革命ウテナ』の物語構造と演出技法の関わりについて
▶男性向けと女性向けの「ときめきメモリアル」に見る男女恋愛の差と変遷
▶ショッピングセンターの将来性に関する考察
―都市における複合型商業施設の成長戦略―
▶オンライン観光の発展可能性に関する研究
▶高等学校の「総合的な探究の時間」におけるArts-based research（ABR）を方法論としたメタファー探究の実践
―かかわりのなかで立ち現れる，自己の経験の意味生成に着目して―
▶対義語ペア「遠い・近い」の非対称性について
―共起語の分析を中心に―
▶Corpus-based Investigation of Lexical and Syntactic Characteristics for Football ESP
▶A Comparative Study of Linguistic Complexity in Human and AI-Generated English Essays
Using Average Dependency Distance and Propositional Idea Density
▶A Comparison of Japanese, Chinese, and Korean EFL Learners' Recognition and Production of Conventional Expressions
▶不安における無の開示と自己
―ハイデガー『存在と時間』第40節における二つの自同性―
▶国木田独歩におけるThomas Carlyle受容
―「牛肉と馬鈴薯」「岡本の手帳」と "The Diamond Necklace"の比較を通して―

年度・研究領域別 修士論文テーマ一覧および要旨一覧
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/m_themes_title.html

博士後期課程　教育課程編成の基本方針

博士後期課程では、博士前期課程における教育研究を基盤としつつ、より広く深い研究を行うことを目指すべく、独自のカリキュラム編成を採ります。このため、博士前期課程における研究領域の区分をなくし、学生が自らの関心に従って自由に領域を超えて学ぶことができる環境を整えます。

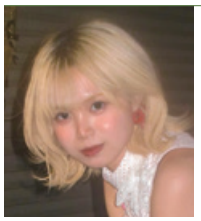
博士後期課程で学ぶ学生の研究テーマは、より特殊で具体的なものとなりますが、それに伴って、より広い研究領域の知識が必要不可欠となるからです。
指導教員のもとでの論文作成が、大学院生の研究生活の中心になるという点では、博士前期課程と博士後期課程の間に違いはありません。

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士（国際日本学）	Classroom Conversation in Japanese Elementary School English Lessons: A Conversation Analytic Perspective	2020年度
博士（国際日本学）	海外中等教育段階の日本語教育カリキュラムフレームワーク構築 ―文化間移動の観点から―	2020年度
博士（国際日本学）	Developing Strategy Training Programs to Promote English Learners' Successful Motivated Vocabulary Learning 英語学習者の語彙学習行動改善に資する方略指導プログラムの開発	2021年度
博士（国際日本学）	Motivational Effects of Variations in Sequence of Cooperative Learning Activities 異なる協同学習の順番が動機づけにもたらす影響について	2021年度
博士（国際日本学）	新聞における文章の近代化 ―明治大正期『読売新聞』を中心に―	2022年度
博士（国際日本学）	西谷啓治の「空」の立場における主体	2023年度
博士（国際日本学）	中国語を母語とする日本語学習者の多義和語動詞の習得における母語の影響 ―「受ける」と「送る」を例に―	2023年度
博士（国際日本学）	戦後の日韓外来語の通時的対照研究	2023年度
博士（国際日本学）	授業場面に生じる「対立」を契機とした共生に関する実証的研究	2023年度
博士（国際日本学）	Fluency Instruction in Elementary School English Education in Japan	2023年度
博士（国際日本学）	中国人日本語学習者による外来語の意味理解に関する研究	2024年度
博士（国際日本学）	中国に由来する年中行事の日本的変容 ―上巳、端午、七夕を例に―	2024年度
博士（国際日本学）	アカデミック・ライティングにおける段落のまとめ方についての研究 ―問題の整理と推敲指導―	2025年度
博士（国際日本学）	Complexity and Dynamicity of Motivation and Engagement in English Language Learning: A Psychological Network Approach	2025年度

院生からのメッセージ



ヨウ ソテイ
YE Chuting
国際日本学専攻
ポップカルチャー研究領域
博士前期課程 2年

博士前期課程
Master's Program

「好き」から始まる知の旅

ポップカルチャーにおけるジェンダー表象に関心を持ち、学術的に深く探究したいと考え進学しました。国際日本学研究科には、多様な専門分野で活躍している先生が揃っていて、充実した教育課程も整っています。また、世界各国から集まった院生との対話を通じて、知と価値観のネットワークが広がりました。自分の「好き」を起点に、多角的な視点から問いを深め、知識と人とのつながりの中で学びを深められるこの環境は、視野を広げたい方にとって最適な場所だと思います。

Q 師事している教員は？ A 藤本 由香里 教授

藤本ゼミでは、各国のアニメ、マンガやジェンダー表象に関して、国際的な視点を持つ仲間と意見を交わしながら学ぶことができます。ひとりでは気づくことができない視点の偏りも、ゼミでの対話を通して多角的に見直すことができ、新たな問いが生まれることもしばしばあります。先生も積極的に意見を下さるので、先生そして仲間とともに、理解を深めていくゼミです。

教員情報 P.115

森上 蒼冴
MORIKAMI Sogo
国際日本学専攻/多文化共生・異文化間教育研究領域
博士前期課程 2年

博士前期課程
Master's Program

幅広い視点から批判的に自分を「見つめる」

国際日本学研究科では、多岐にわたる研究領域が大きな魅力のひとつとして挙げられます。一見すると遠く離れた研究同士でも、論文の源泉を辿ると、実は同一の提唱者に行きつく、なんて面白い発見もあったりします。自身の研究とは異なる他領域の見地や方法論が刺激となり、新たな発見や研究への意欲が掻き立てられることもあります。一筋の光が各研究領域に屈折し、無造作に幾重にも乱反射する結晶体のように、ひとつの視点に留まらず、多面的に研究を捉えることができる環境だと思います。

Q 師事している教員は？ A 岸 磨貴子 教授

岸研究室では主にアートを用いた探究手法（Arts-Based Research）の研究を行っていますが、各学生の研究は多様です。本研究室の魅力は「対話」であふれていることです。授業も演習も対話し多角的に理解を深めています。また、私が進めている実践研究も多文化・多言語環境の教師や子どもたちと対話しながら探求しています。

教員情報 P.116

修了生からのメッセージ

須田 陽花理
SUDA Hikari
国際日本学専攻
博士前期課程
2026年3月修了

博士前期課程
Master's Program

思考力を磨く

コロナ禍で思い描いた学生生活を送れなかった経験から、自らテーマを設定し、ひとつの研究に集中したいと考え進学しました。国際日本学研究科では先生方や他領域の学生と距離が近く、議論や相談の機会が豊富にあります。さらに国際系研究科として留学生も多く、多角的な視点を養えるように整えられた環境が魅力です。検索すれば容易に答えが得られる現代だからこそ、自ら考え意見を導き出す力を磨くことに意義があり、この力は将来ビジネスの場で課題を発見し解決策を導く際も必ず役立つと確信しています。

Q 師事していた教員は？ A 呉 在烜 教授

呉研究室は、経営学やものづくり論を専門とする先生の指導のもと、学生が自由にテーマを設定し研究を深められる点が特徴です。観光や文化など多様な分野に取り組め、議論を通じて思考力を養うことができます。さらに、海外から見た日本という視点を提示してくださるため、異なる文化的・社会的背景からの考え方を学ぶことができ、新たな視点を培うことができる点も魅力です。

教員情報 P.115

樫村 祐志
KASHIMURA Yushi
国際日本学専攻
博士後期課程
2026年3月修了

博士後期課程
Doctoral Program

研究力をつけるための充実した研究環境

研究分野は常に発展し続けるので、研究活動を進める際には自身の知識をアップデートし続けることが求められます。そのためには、学会に足を運んだり新しい論文を読んだりすることが必要になります。その際、充実した研究助成制度は金銭面で大変助かります。また、豊富な外部データベースを使うことで、多くの最新論文を入手することが可能です。このような支援があるおかげで、安心して研究活動を行うことができました。ぜひ本研究科で没頭して研究する楽しさを感じてみてください。

Q 師事していた教員は？ A 廣森 友人 教授

廣森ゼミでは、英語学習者・英語教師に関わる心理的要因を専門とする院生が在籍しています。修士・博士ともに研究テーマが近いからこそ、専門知識を深め合うことができます。また、学会での口頭発表、論文執筆、他大学院との交流を積極的に行います。研究者として成長できる機会が充実しており、自信を持って研究活動に取り組むことができます。

教員情報 P.117

教員一覧

ポップカルチャー研究領域

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ ポップカルチャー研究領域 教員一覧 >>>

藤本 由香里
FUJIMOTO Yukari

教授

研究分野：少女マンガの発展過程・マンガの国際比較

【最終学歴】東京大学
【担当授業科目】ポップカルチャー演習ほか
【研究テーマ】少女マンガに見る女性の意識の時代的変化／表現技法の発展史／マンガにおける性別越境表現／マンガの国際比較（流通条件や表現規制・著作権問題を含む）

宮本 大人
MIYAMOTO Hirohito

教授

研究分野：漫画史

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】ポップカルチャー演習ほか
【研究テーマ】昭和戦前・戦中期における子供向け物語漫画の表現・出版・流通・受容、およびそれに対する統制

森川 嘉一郎
MORIKAWA Kaichiro

准教授

研究分野：マンガ・アニメ・ゲーム・おたく文化史、同領域のアーカイブ構築と展示運用

【最終学歴】早稲田大学大学院
【担当授業科目】ポップカルチャー演習ほか
【研究テーマ】おたく文化史／マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ構築と展示運用／趣味（taste）と都市空間

日本社会・産業システム研究領域

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 日本社会・産業システム研究領域 教員一覧 >>>

小笠原 泰
OGASAWARA Yasushi

教授

研究分野：無形資本とデジタルテクノロジーと経営・社会

【最終学歴】シカゴ大学社会科学大学院・経営学大学院
【担当授業科目】日本社会・産業システム（国際知財）
【研究テーマ】グローバル化とデジタルテクノロジーの進歩によるデータを含めて無形資産（知財）が企業経営および国家・社会に与える影響について

呉 在烜
OH Jewheon

博士（経済学）
教授

研究分野：ものづくりシステムの国際比較

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本社会・産業システム演習ほか
【研究テーマ】ものづくり組織能力の国際比較とグローバル経営の研究

田中 絵麻
TANAKA Ema

博士（学術）
准教授

研究分野：メディア政策論・ICT政策論、コンテンツ産業論

【担当授業科目】日本社会・産業システム演習ほか
【研究テーマ】AI時代における情報通信産業政策、コンテンツ産業の構造変化、メディア・リテラシーの要件

小野 雅琴
ONO Makoto

博士（商学）
准教授

研究分野：広告論、消費者行動論、マーケティングリサーチ

【最終学歴】慶應義塾大学大学院
【担当授業科目】日本社会・産業システム研究（広告）
【研究テーマ】広告等のマーケティング・コミュニケーション情報が消費者の製品評価に与える影響をテーマに、理論モデルを構築し実証する研究

多文化共生・異文化間教育研究領域

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 多文化共生・異文化間教育研究領域 教員一覧 >>>

山脇 啓造
YAMAWAKI Keizo
教授

研究分野 移民政策／多文化共生論

【最終学歴】コロンビア大学国際関係・公共政策大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育（多文化共生特論）ほか
【研究テーマ】国と地方自治体の外国人政策／多文化共生の地域づくりと学校づくり／やさしい日本語の活用

萩原 健
HAGIWARA Ken
博士（文学）
教授

研究分野 演劇学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】視覚文化研究（演劇）ほか
【研究テーマ】ドキュメンタリー演劇／多文化共生のための演劇

岸 磨貴子
KISHI Makiko
博士（情報学）
教授

研究分野 教育工学／学習環境デザイン／アートベース・リサーチ

【最終学歴】関西大学大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育（共生とメディア）ほか
【研究テーマ】探究学習を多様化するアートベース・リサーチ／ワークショップのデザイン

平井 達也
HIRAI Tatsuya
Ph.D.
教授

研究分野 異文化間教育学／カウンセリング心理学

【最終学歴】ミネソタ大学教育心理学大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育（多文化共修）ほか
【研究テーマ】多文化ファシリテーション／グローバルリーダー育成／キャリア教育

ピニロス・マツダ・デレク・K
PINILLOS MATSUDA, Derek K.
博士（教育学）
准教授

研究分野 異文化間教育学／教育社会学／多文化教育論

【最終学歴】上智大学大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育（文化間移動と教育）
【研究テーマ】「移動する人々」のアイデンティティ変容と教育の影響／異文化間能力の育成

日本語学・日本語教育学研究領域

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 日本語学・日本語教育学研究領域 教員一覧 >>>

田中 牧郎
TANAKA Makiro
博士（学術）
教授

研究分野 日本語学／日本語の歴史

【最終学歴】東京工業大学大学院
【担当授業科目】日本語学演習ほか
【研究テーマ】語彙の歴史的な研究／日本語の言語問題に関する研究／コーパスに基づく日本語研究

小森 和子
KOMORI Kazuko
博士（学術）
教授

研究分野 第二言語習得／日本語教育（語彙）／評価

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本語教育学演習ほか
【研究テーマ】第二言語としての日本語の語彙習得に及ぼす母語の影響／語彙知識の評価測定

英語教育学研究領域

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 英語教育学研究領域 教員一覧 >>>

大須賀 直子
OSUKA Naoko

Ph. D. (Linguistics)
教授

研究分野 中間言語語用論／英語教育／第二言語習得

【最終学歴】ランカスター大学大学院
【担当授業科目】英語教育学演習ほか
【研究テーマ】日本人学習者の語用論的能力についての研究

廣森 友人
HIROMORI Tomohito

博士（国際広報メディア）
教授

研究分野 英語教育学／心理言語学／第二言語習得研究

【最終学歴】北海道大学大学院
【担当授業科目】英語教育学演習ほか
【研究テーマ】第二言語学習の心理学。第二言語（英語）を学ぶにはどんな学習方法が効果的なのか、やる気はどうすれば高まるのか

ルーゲン，ブライアンD.
RUGEN, Brian D.

Ph. D. (Education)
教授

研究分野 Applied Linguistics; TESOL

【最終学歴】ハワイ大学マノア校
【担当授業科目】応用言語学研究（Discourse Analysis）ほか
【研究テーマ】Discourse and identity; English language teacher education; curriculum development in TESOL

マクロクリン，ディヴィッドA.
McLoughlin David A.

Ed. D.
准教授

研究分野 Motivation in Second Language Learning／Self-regulation of motivation

【最終学歴】エクセター大学大学院
【担当授業科目】応用言語学研究（第2言語習得理論A）
【研究テーマ】Motivation in Second Language Learning

大矢 政徳
OYA Masanori

博士（学術）
教授

研究分野 言語学（コーパス言語学、依存文法）

【最終学歴】早稲田大学大学院
【担当授業科目】英語教育学演習ほか
【研究テーマ】依存文法の枠組みに基づいた自然言語統語構造の定量的比較対照研究

青山 拓実
AOYAMA Takumi

MA in English Language Teaching
特任講師

研究分野 応用言語学、第二言語習得、英語教育

【最終学歴】ウォーリック大学大学院
【担当授業科目】英語教育学研究（学習指導要領と指導法）
【研究テーマ】英語学習における心理的要因（動機づけ）の役割、学習者のエンゲージメント、英語科教育法

文化・思想研究領域

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 文化・思想研究領域 教員一覧 >>>

長尾 進
NAGAO Susumu

教授

研究分野 身体教育学ー武道論

【最終学歴】筑波大学大学院修士（体育学）
【担当授業科目】日本思想研究A・B
【研究テーマ】武道思想史／武道技術史／武道の国際普及

美濃部 仁
MINOBE Hitoshi

博士（文学）
教授

研究分野 哲学、とくに宗教哲学

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】日本思想演習ほか
【研究テーマ】西田とドイツ観念論における「絶対的なもの」を、とくに「自我」との関係において研究

小谷 瑛輔
KOTANI Eisuke

博士（文学）
教授

研究分野 日本近現代文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容演習ほか
【研究テーマ】芥川龍之介の文学／文学理論／文芸批評／近現代日本文化

鵜戸 聡
UDO Satoshi

博士（学術）
教授

研究分野 フランス語圏アラブ＝ベルベル文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容演習ほか
【研究テーマ】アルジェリアを中心とするフランス語圏文学・アラブ文学／欧州におけるイスラームとユマニスム／移民船と航路

馬場 小百合
BABA Sayuri

博士（学術）
准教授

研究分野 日本古典文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容演習ほか
【研究テーマ】日本上代文学における漢字表現

張 佳能
ZHANG Canon

博士（文学）
講師

研究分野 ポピュラー音楽研究

【最終学歴】大阪大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容演習ほか
【研究テーマ】20世紀の大衆文化史／昭和期の大衆音楽